

新年あけましておめでとうございます。平成最後の年になります。

私事ですが、元号を3つまたぐことになります。平成が変わるとき、世の中が変わることに実感はありませんでした。元号が変わることが生活にはあまり密着していなかったことが大きかったと思います。しかし今はしみじみ感じるのです、30年という月日を。

平成には、ベルリンの壁崩壊、湾岸戦争、イラク戦争がありました。普賢岳が噴火し、淡路大震災もありました。サリン事件があり、臓器移植法も成立しました。消費税が導入され、携帯電話がスマートフォンに変わりました。東日本大震災、熊本地震もありました。平和な世になっても世界のどこかでは戦争があり、自然災害は終わりを知らず、IT、AIは劇的に進歩しています。人とともに、自然の中で生き、AIの進化に生活が様変わりしていくことはこれからも変わらないでしょう。

もう一つ、学校の変遷を30年間目のあたりにしてきたわけですが、その変化の中で一番記憶に残っているのは総合学科の設立でした。採用教科を超え、学校で設定した教科横断的なまたは、全く新しい教科を指導をしていくということは教員の私にとっては未知で、不安に満ちた改革でした。しかし時間が過ぎ去ってみれば、試行錯誤の中、総合学科は始動し、個々のペースで幅広く学べるその環境は、新たな学びとなり、多くの生徒の大切な居場所となったことは揺るがぬ事実です。私自身も総合学科の経験で学んだことが多くあります。専門教育の特色を持ち、職業教育を前面に、学校から社会へつなぐ学びの総合学科高校は、その意義を全うしたと思います。

そして、学校が変わっていくことは、その背景に子供の変化が必ずあり、そうして教育は変遷していくのだと、また、いずれの社会もですが、最初に望んだ職や知識・技能だけでやっていける場所もなく、社会に出た後も、人は変化し続けるものなのだ実感します。

早い話歳を取ったということなのです。

さて、平成最後の亥年です。突進力が強く、それでいて神経質といわれるイノシシですが、私自身は、ゆっくり歩もうと思います。

百合丘とともに、置かれた場所を感じ、愛し、個である前に、その一員として、また、年を重ねていきたいと思います。

4月には新しい元号が公表されます。書道の授業では新しい元号を予想させ、筆を執っていると聞きました。生徒が思う未来が重なってくれるのでしょうか。未来を想像させるよい授業だと思えます。公表が楽しみです。